

2. 事業の概要と成果

(1) 上位目標の達成度

本事業の上位目標は、「ラオスにおける障害者に対する職業訓練等による就労支援を通じ、障害者の社会的・経済的自立を促進する。併せてそのための職業訓練指導員を養成する」である。

本事業では、前期同様に当会独自のネットワーク、ラオス障害者協会及びシクード障害者職業訓練校との連携の下で研修生を募り、1年間に車椅子・福祉機器製造・修理・販売研修を2回、美容研修4回、ベーカリー研修、IT印刷研修を各3回実施し、ラオス全国から募った合計68名の障害当事者を対象に技能訓練を行った。

内37名が就労、就学、独立起業を果たし、16名が当会の仮想就労の場である「就労支援センター」でOJTを続けている（就労率78%。OJT継続研修生含む）。3年間の事業期間を経て、当事業でOJTを続けている研修生の中には、高いレベルの専門技術を習得し、尚且つ、指導員候補者として技能訓練リーダーとしての素質を開花させた有望な人材も生まれ、当会の事業をけん引する障害当事者の指導員も着実に育ってきている。その背景としては、当会就労支援センターが取り入れた「仮想店舗によるOJT方式と顧客との実際の取引をビジネス訓練に取り入れた新しいタイプの職業訓練」によるところが大きく、研修生は実際のビジネスの場で仕事に対するモチベーションを上げ、就労・起業への意識が大いに高まったためである。第3期の成果として、障害者の社会的経済的自立を促進した成果例は以下の通り。

1. 車椅子製造・修理・販売研修の成功例

上記研修の研修生として参加したある障害当事者（男性）は、シクード障害者職業訓練学校機械科の卒業生であり、基本的な機械修理の技術は既に持っていたため、車椅子製造修理の基本技能を驚くほど速く習得し、周りの障害当事者の研修生に指導できるほどのレベルとなった。彼が本事業の研修、当会仮想就労の場である就労支援センターのOJTに参加し、車椅子修理販売ビジネスのノウハウを習得し、また、車椅子製造修理及び整備方法等の技術を日本人専門家から直接学んだことで、大いに技能が高まり、また刺激を受け、今度は自分で障害当事者の仲間と共に車椅子の独立した販売店をラオスで立ち上げたいと申し出てきた。彼の技量を見込み、当会と日本人専門家のネットワークを通じて、日本の車椅子会社の支援を受けることができるようになり、実際にビジネスの契約関係を結び、日本の中古車椅子をラオスで修理、整備し、販売するという正規代理店として認可され、起業を果たすことができた。今後は指導員としても障害当事者で同じ分野の技能習得を希望し、起業を志す仲間をどんどん支援したいと話している。

2. 美容研修の成功例

上記研修に参加したある女性障害当事者は、下肢に障害があったが、研修に参加した当初から、社会的、経済的な自立を強く願って

おり、熱心に研修、OJTに取り組んでいた。1年近く当会就労支援センターでOJTに参加していた間、就労訓練の対価として得た勤労手当をコツコツと貯蓄し、自分の将来を見据えて、独立して美容院を起業したいと希望するようになった。当会の技能訓練の目標は「障害者の社会的、経済的自立」であり、独立を目指す研修生に対しては、その後押しをするため、美容院独立のためのビジネスプランを研修生と共に作成している。OJTを通じて、実際の顧客から美容サービスの対価として売上を得て、その売上管理を通じて、収益を計算し、ビジネスを行うノウハウを一通りのサイクルとして経験することから当会のOJTは始まり、OJT後半は美容ワークショップにおいて、起業をすることを具体的な上位目標とし、物件探し、資機材の買い付け方、各種コストの検討などを、ワークショップの運営記録と比較しながら、シュミレーションし、より実践的なビジネス指導を日本人専門家の支援と共に行った。その結果、仲間と2人でOJT中に貯めた資金を基に、ビエンチャン市内に小さいながらも美容院をオープンさせることができた。自分たちでビジネスリスクも背負いながら、日々考え、社会的経済的に自立した生活を送っており、指導員としても更なる障害当事者への技術指導にも当会と協力し携わっている。

3. ベーカリー研修の成功例

上記研修の参加者でベーカリー部門立ち上げから、OJTを続けている身体障害当事者（女性）は、第3期はベーカリー・クッキー部門指導員として、後進の指導を行いながら当会ベーカリー部門のリーダーとしてビジネスをけん引している。彼女が研修を受け始めた当時は「家の中にいるのが一番好き。テレビを見るのが一番の幸せ。」と言っていた程大変内気な性格であり、社会との関わりは一切なかった。彼女は真面目に地道に当会就労支援センターのベーカリー部門のOJTを続け、最初は形も不揃いで、完成度の低いクッキーを作り続けながらも、練習を重ね、技能レベルが徐々に向上し、3期目では多くの顧客に喜ばれるような数々の新規レシピの商品を作ることが出来るまでに成長した。そして、レシピ、製造スケジュールの管理、販売も行い、ベーカリー部門のリーダーとなった。現在は、新しい商品の開発や、後輩の指導を行っており、時には後輩から「先生」と呼ばれ慕われる立場となり、彼女自身がリーダーとして成長し、確かな自信が醸成された。

<p>(2) 事業内容</p>	<p>日本人、タイ人専門家の指導の下、ラオス全国から募った合計 68 名の障害当事者を対象に以下の技能訓練を行った。</p> <p>車椅子製造研修 計 2 回 研修生 12 名 美容研修 計 4 回 研修生 20 名 ベーカリー研修 計 3 回 研修生 18 名 IT 印刷研修 計 3 回 研修生 18 名</p> <p>2013 年 6 月 第 1 回美容研修 研修生 6 名 7 月 IT 印刷研修準備 8 月 第 1 回車椅子製造研修 研修生 6 名 8 月 シェンクワン就労支援セミナー (於: シェンクワン 行政官、障害当事者、親、村長、企業関連、学校関係者 70 名参加) 8 月 第 1 回ベーカリー研修 研修生 6 名 8 月 第 2 回美容研修 研修生 6 名 9 月 第 1 回 IT 研修 研修生 5 名 10 月 ラオスハンディクラフトフェスティバル出店 11 月 ルアンパバーン就労支援セミナー (於: ルアンパバーン行政官、障害当事者、親、村長、企業関連、学校関係者等 80 名参加) 11 月 第 2 回ベーカリー研修 研修生 6 名 11 月 第 2 回 IT 研修 研修生 6 名</p> <p>2014 年 2 月 第 3 回美容研修 研修生 4 名 3 月 第 2 回車椅子製造研修 研修生 6 名 3 月 第 3 回 IT 研修 研修生 7 名 5 月 第 3 回ベーカリー研修 研修生 6 名 5 月 第 4 回美容研修 研修生 4 名</p> <p>通年の OJT の中でビジネスノウハウ訓練、販売研修、広報戦略訓練、企業開拓研修等を行っている。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>第 3 期では車椅子製造研修を 2 回、美容研修 4 回、ベーカリー研修、IT 印刷研修を 3 回行って、合計で 68 名が参加した。</p> <p>車椅子製造研修参加者 12 名のうち、7 名が就職し、2 名が当会ワークショップで働いている。(就職・就学率 75%)</p> <p>美容研修参加者 20 名のうち、6 名が就職し、3 名が就学、4 名が当会ワークショップで働いている。(就職・就学率 65%)</p> <p>ベーカリー研修参加者 18 名のうち、5 名が就職し、3 名が就学、7 名が当会ワークショップで働いている。(就職・就学率 83%)</p> <p>IT 印刷研修参加者 18 名のうち、11 名が就職し、2 名が就学、3 名が当会ワークショップで働いている。(就職・就学率 89%)</p> <p>副次的な成果として、次の 3 点が挙げられる。</p> <p>1 点目は、車椅子製造部門で研修を受けた障害当事者が日本の車椅子会社と協働して、販売店として独立し、中古車椅子を修理・整</p>

備をし、ラオスの障害者、高齢者に対して、車椅子を販売することで、車椅子を購入する障害者、高齢者も被益者となり得ている点である。ラオスで車椅子を必要とする人が障害や体型に合わせた高品質な車椅子を購入することは難しい。本事業の研修生が自立し、高品質な車椅子を利用者に合わせ、修理、整備し、供給することで、ラオスの車椅子を必要とする障害者、高齢者にとって、車椅子購入の新たな選択肢の一つとなっており、事業の成果と言える。

2点目は、美容ワークショップを通じたコミュニティーや周辺住民・個人へ障害者就労を啓発できた点である。美容ワークショップは第3期1年間で3449名の顧客を受け入れ、月400名以上の顧客が来店した月も4カ月ある。この400名という数字はほとんどが近隣のラオス住民である。この数字を鑑みても、地元の地域で障害者就労が積極的に受け入れられていることを示し、障害者が提供する美容サービスを通じて、障害当事者の潜在的な能力や就労の可能性を地域住民に理解してもらう大変良い機会となっている。

3点目は、クッキー販売を通じた、ビエンチャン社会や企業に対する障害者就労の理解の促進と、持続可能な障害者支援モデルの提案をすることができた点である。ベーカリーワークショップは障害当事者のスタッフたちが段階的に商品開発を進め、最終的に8種類のクッキーを販売した。販売先として19の小売店や飲食店、企業と提携し、1年間で18081パックのクッキーを販売することができた。小売店、飲食店は、障害者就労を理解しつつ、商品を販売することで、互いに利益を出し、結果的に持続的に障害者就労を支援するという形を作ることができた。

また、ラオスを代表する大手企業は、社員食堂、本社窓口でのクッキー販売、障害者が作るクッキーを販売促進商品として活用することがCSR（企業の社会的責任）を促進するためのツールともなっており、それが同時に障害者就労を支援することにもつながっている。いくつかのサポート企業がラオスにおける「CSR推進企業」となり、当会事業を後押ししている。このような企業が障害者就労をラオス社会に啓発する役目も担い、社会に貢献する、という、障害者支援の良い循環が形成され始めた。そのロールモデルとなる企業への障害者就労支援CSR活動を提案することができたことが大きな成果である。(①サポート企業の増加)

ビエンチャンにおいてバンケット等ができる大規模なとあるレストランは、オーナー（ラオス人）が当会のクッキー販売の仕組みに大変興味を示し、多大に協力してくれている。大きなイベントが開催されたり、タイ人、ベトナム人観光客が団体で、レストランに昼食を取りに来たりする際などは、障害当事者の当会スタッフに連絡があり、臨時のクッキー販売ブースをレストラン内に設置させてくれている。また、レストランのネットワークを活かし、クッキーを関係者や得意先へのお土産などにし、ベーカリーワークショップのネットワークを広げることを支援してくれている。(②ラオス富裕

	<p>層による当会事業への支援)</p> <p>ラオス国立大学の学生向けフードコートでもクッキーを販売している。フードコートの管理会社が協力してくれ、ブースの賃貸料等は支援という事で免除してくれ、ブースを設けている。また、管理会社が運営する飲食店にもクッキーを卸し、協力を得ながら販売している。(③ラオス若い世代への障害者就労支援への理解の醸成)</p> <p>以上の3つの事例は、今後の持続可能な障害者就労支援の布石となり、ラオスの社会全体が当会事業を支える礎となる。</p>
(4) 持続発展性	<p>上記「達成された成果」で記述した通り3年間の事業を通じて以下の3点が重要な成果である。</p> <p>①サポート企業・団体が確実に増え、ラオス社会へ障害者就労支援の理解が深まった。</p> <p>②ラオス富裕層が当会事業へ積極的に理解を示し、サービス・商品購買顧客として支援の輪が広がった。</p> <p>③若い世代のラオス人が障害者就労支援へ更なる理解を深めてきている。</p> <p>持続発展性の根拠を示す上でも重要な上記3点が既に促進されていることで、当会の事業の今後の持続発展性は大いに担保されているといっても過言ではない。</p> <p>補足説明として、例えば、車椅子製造・修理・販売事業は、指導者が育成され、新しい研修生を受け入れる傍ら、技能訓練が持続的に行われるため、それを支えるビジネスの継続性として、日本の大手車椅子会社からの支援を継続的に受けることができるようになった。中古車の輸送や部品の供給や、修理、整備の技術を引き続き、日本企業から学びながら、ラオスで高品質な車椅子を販売していくことでラオスに今後ビジネスとして十分に発展する可能性を秘める福祉機器ビジネスで十分に発展する余地がる。</p> <p>美容ワークショップには近隣のラオス住民を始めとした月に300名程度の顧客を既にリピーターとして確保している。ラオスにおける美容院はシャンプーやブローなどのサービスを日常的に提供し、顧客も近隣の人が多く、今後も継続して、技能訓練ワークショップを運営し、障害当事者のスタッフたちの働く場、さらなる高い技術を学ぶ場として、運営していくことができると考えられる。</p> <p>ベーカリー部門は19の提携先企業及び商店を持ち、その他にも援助団体や在ラオス大使館なども、会議の際のお茶菓子として、商品を購入している。それらの顧客に支えられながら、安定した売り上げを得ることができており、また、スタッフたちを中心に商品開発、新しい顧客の開拓、経理関係の事務等も行っている。今後も障害当事者のスタッフたちの働く場、さらに高いレベルの技術を身につける場、そして、就労支援を受けるチャンスに恵まれなかった障害当事者たちに、OJTを通して、研修を提供する場として、ワークショップが運営されていくことが可能であると考えられる。</p> <p>IT印刷部門は競争の激しい分野ではあるが、印刷部門は価格的にまだまだ勝負できる余地があり、他者にはないプラスαの付加価値を持つIT印刷部門として、名刺やパンフレット印刷等、ベーカリー一部</p>

門等と連動しながら顧客開拓を望める分野である。

以上の例からも、各事業のビジネスと連動しながらの「**仮想店舗によるOJT方式と顧客との実際の取引をビジネス訓練に取り入れた新しいタイプの職業訓練**」は成果を出しており、持続可能なビジネスモデルとして今後もラオスで広がっていくことと確信している。